

# TTAPによる自閉症スペクトラム障害生徒の 職業評価と就労支援への活用

Practical use of TTAP for occupation evaluation of an autism disorder student

清水 浩

Hiroshi Shimizu

## 要旨

本研究では、知的障害特別支援学校高等部から一般企業就労に向けたスムーズな移行支援を図るために、自閉症スペクトラム障害（Autism Spectrum Disorders：以下「ASD」と記す）の特性や長所を取り入れた検査であるTTAP（TEACCH Transition Assessment Profile）を実施することにより、ASDの症状からもたらされる問題点の把握、ASDの強みを生かした支援内容及び支援方法を見つけ、知的障害のあるASD生徒の進路指導におけるTTAPの活用について検討した。

TTAPは米国において、知的障害を伴うASDの生徒が学校を卒業後、社会に参加する上で必要な教育サービスを提供するためのITP（Individualized Transition Plan：個別移行計画）を策定するために使われるアセスメントである。

その結果、TTAPのフォーマルアセスメント及びインフォーマルアセスメントを現場実習事前学習及び現場実習にそれぞれ活用することで、個別移行支援計画における就労に向けたより具体的な指導内容及び方法等を明らかにすることができた。

**キーワード：**自閉症スペクトラム障害、TTAP、現場実習、個別移行支援計画、キャリア教育

## 1. 問題と目的

我が国においては、「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）」（1999.中央教育審議会）以降、キャリア教育に関連した様々な施策が進められ、キャリア教育は教育改革の重点行動計画に位置付けられた。その流れを受け、平成21年3月に告示された特別支援学校学習指導要領の改訂の基本方針を踏まえ、特別支援学校高等部学習指導要領総則に、職業教育にあたって配慮すべき項目及び進路指導の充実に関する「キャリア教育の推進」が規定された。しかし、発達障害者の就労支援に関しては、その必要性が指摘されつつもまだまだ試行的段階で、様々な検討と試行がなされている段階と言える。とりわけ、発達障害の障害特性と発達課題を理解したきめ細かな就労支援を行うことには、多くの困難が伴っているのが現状である（佐竹、2009）。

障害のある人の就労支援については、職業相談・職業評価・職業前トレーニング・プレイスメント及びオンザジョブトレーニング・フォローアップなどの流れで行われることが多いが、職業トレーニングやプレイスメント、フォローアップを行う際には、適切なアセスメントが必要となる。現在、障害者の職業評価や適性検査は、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、更生相談所など多くの支援機関で実施されているが、ASD者に特化した職業適性検査が実施されているところはほとんどない。

そのような中、ノースカロライナ州にあるTEACCH（Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children）センターにおいて学校在学中のASD生徒が成人

生活へ移行するためのアセスメントとしてTTAP (TEACCH Transition Assessment Profile) が作られた。TTAPは、ASD生徒が学校を卒業後、社会に参加する上で必要な教育サービスを提供するためのITP (Individualized Transition Program: 個別移行計画) を策定するために使われるアセスメントである。ASDの特性を十分に考慮した検査であるTTAPを実施することにより、自閉症の強み (strength) を生かした支援方法を見つけることができると考えられる。

自閉症の強みについてウエアマン (1998) は、「最近ASD児者が自分の好みを見出すことができるようにするために、さまざまな職場や活動を経験する必要があることが認識されるようになってきた。TTAPは強みや興味をアセスメントすることを強調しているので、移行のニーズアセスメントが必要になったら、たとえコミュニケーション、見通し、判断能力の制限がある人々においても、好みを見出せるであろう」と、自閉症の生徒でも自分の好みを表現することができる適切な手段を使うことの重要性を強調している。

また、最近ニートと呼ばれる若者の増加が話題となっているが、2006年の厚生労働省による調査で首都圏などにあるニートの就職・自立支援施設4か所を選び、施設を利用したことのあるニートの若者155人について、行動の特徴や成育歴、指導記録などを心理の専門職らが調べた。この結果、医師から発達障害との診断を受けている2人を含む計36人、23.2%に、発達障害またはその疑いがあることが分かった。彼らの多くは、決して仕事をしたくないわけではなく、自分の能力や関心と実際の仕事のつまずきから離職・転職を繰り返してしまうのである。彼らは知的な能力は高くても、ASDの特性からくる困難性の部分によって、何らかの支援が必要な人たちである。彼らもTTAPを活用した職業評価によって、自分に合った仕事を見つけ、適切な支援を受けることができれば、就労における様々な問題を軽減することができるはずである。

よって本報告では、ASD生徒を対象として、学校から就労へのスムーズな移行支援を図るために、ASDの特性を十分に考慮した検査であるTTAPを実施することにより、ASDの特性からもたらされる問題点の把握、ASDの強みを生かした支援方法を見つけ、ASD生徒の就労支援におけるTTAPの活用について検討することを目的とする。

## 2. 方法

### 2. 1. 事例生徒の実態及び特性

対象生徒は知的障害特別支援学校高等部3年ナツコ (仮名) 女子。4歳の時に、医療機関にて高機能自閉症と診断された。緊張すると何を話してよいか分からなくなり、髪の毛を触ったり、涙を浮かべたりすることがある。また、自信がないときは、失敗することを恐れて自分を卑下するようなことを言ったり、活動に取り組む前に口数が多くなったりするなど不安定になることもある。その他にも、質問しなければならぬ場面では、伝え方が分からず独り言のようになってしまうことがあるなどの様子がみられる。

実態把握のために実施したWISC-IIIの検査結果 (15歳7ヶ月) は、全検査IQ91、言語性IQ82、動作性IQ103で、群指数は、言語理解83、知覚統合113、注意記憶84、処理速度64であった。また、言語性検査評価点は、知識5、類似7、算数6、単語5、理解6、数唱11、動作性検査評価点は、絵画完成11、符号8、絵画配列15、積木模様12、組合せ11、符号12、記号探し5、であった。検査では、PIQ>VIQ、ディスクレパンシー21となっており統計的に5パーセント水準で有意な差がみられ、言語による指示理解の困難さが読み取れる。絵画配列が最も評価点が高く、社会的特徴を言葉でなく絵で示された方が理解しやすいということが分かる。ナツコは日常絵を描くことが好きで、物の形や色を的確に捉えることができ、漫画やアニメー

ション、ゲームに対する興味関心が高い。また、言葉による複数の指示については混乱して分からなくなってしまうことが多い。以上のことから、聴覚的刺激より視覚的刺激の方が優位であり、視覚的な刺激を正確に認識し、一つのまとまりへ合成する能力が強く、また、意味があるものの方が理解しやすいと考えられ、有意味刺激の視知覚及び視覚的体制化が強い。

ナツコの知的水準は平均に位置しているが、認知能力にアンバランスがあること、特に「視覚的刺激に対しての優位さ」「有意味刺激の視知覚の強さ」「不安の影響の強さ」が明らかで、その点が「他者とのコミュニケーションの取りにくさ」に大きく関わっていると考えられる。また、多くの指示を一度にされると自信が持てないために次の活動への不安を感じたり、挨拶や報告などがはっきりせず声が小さくなってしまったりするという状況が予想される。従って、ナツコの指導には、活動の前に見通しを持たせ不安を取り除くという意味から、事前に内容を呈示することが大切である。その際は、文字や写真、イラスト、映像などを利用するとともに、ナツコ自身にもメモを取らせるなど作業中や終了時に後でも確認することができる手段を活用することが有効である。また、情報の呈示は一度に多くを行うのではなく、理解の様子を確認しながら一つ一つを確実に行うことが必要である。そのことはナツコの作業の正確性の向上にも有効であると考えられる。成功体験を多くし、できたことを賞賛し自信をつけさせることが大切であり、そのことがナツコの積極性につながっていくものと考えられる。

## 2. 2. 手続き

自閉症児・者の移行アセスメントであるTTAPフォーマルアセスメントに基づき産業現場等における実習（以下、現場実習）場所を選定し、インフォーマルアセスメントを実施した。TTAPフォーマルアセスメントは、次の3つの異なった環境条件の中でのアセスメントで構成されている。直接観察尺度では、生徒のスキルに焦点を当てた観察とアセスメントを行う。家庭尺度と学校・事業所尺度では、親や教師、事業所の上司への聞き取りから、それぞれの領域での生徒の強みと弱みに関する情報を得ることができる。

それぞれの3領域の尺度は、6つの機能領域（①職業スキル、②職業行動、③自立機能、④余暇スキル、⑤機能的コミュニケーション、⑥対人行動）に分けられる。また、採点システムでは、3つの基準の中から1つを選んで採点する。「合格」は生徒がうまく課題を達成した場合に採点する。「不合格」は生徒が課題に取り組もうとしなかったり、取り組んでも課題が達成できなかつたりした場合に採点する。「芽生え」は課題を部分的に達成できたり、達成方法について初歩的な理解を示していたりする場合に採点する。検査の項目数であるが、3つの尺度のいずれもが、6つの機能領域において測定することができる。TTAPでは、3つの尺度のいずれの機能領域にも12項目が配置され、各尺度が合計72項目、テスト全体で216項目となる。これは、TTAPの基となった青年・成人期心理教育プロフィール（AAPEP；Adolescent and Adult Psycho-Educational Profile/168項目）を拡大したことになり、この検査では、より広範囲に軽度から重度の発達障害児者のアセスメントを行うことができる。

TTAPインフォーマルアセスメントには、①スキルの累積記録（CRS）、②地域での現場実習アセスメントワークシート（CSAW）、③地域でのスキルチェックリスト（CSC）、④地域行動チェックリスト（CBC）、⑤毎日の達成チャート（DAC）がある。実習期間の初日にインフォーマルアセスメント（CSAW）、及び実習期間中にインフォーマルアセスメント（DAC）を実施し、作業状況の変化、獲得スキルの確認等を行った。なお、インフォーマルアセスメントもフォーマルアセスメントと同様に6つの機能領域に分けられ、採点システムも同じである。また、DACの記入の仕方であるが、左端に現場実習における実習内容をフォーマルアセスメントと同様に、6つの機能領域に分け、具体的な内容を記入する。その右隣に実習の

様子を評価する。構造化/設定の欄は実習内容を行う際に気を付ける点を記入する。また、コメントは実際の取組の様子を記入する。

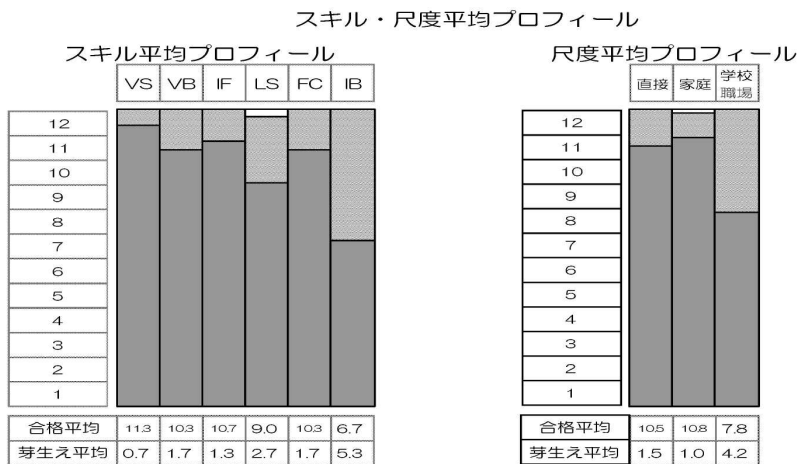
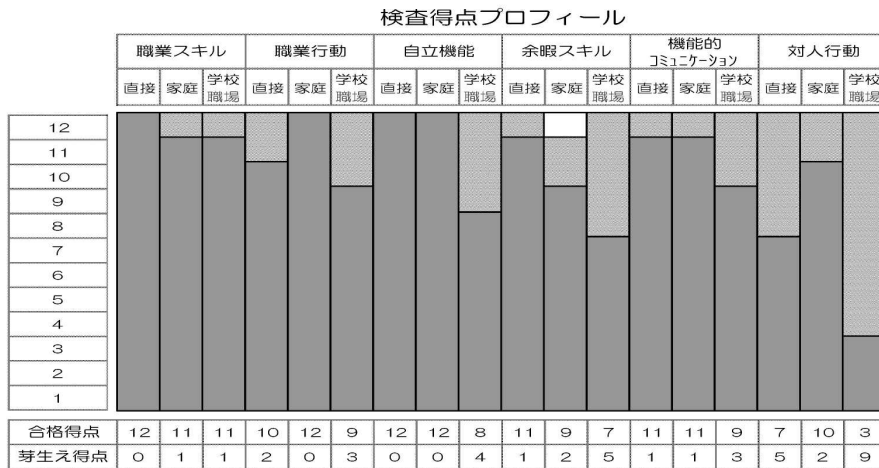
実施場所及び期間は、和食レストランにて201X年11月に15日間実施した。

### 3. 結果

#### 3. 1. TTAPフォーマルアセスメント結果

以下に、ナツコのTTAPフォーマルアセスメントの結果（図1）を示す。

TTAP（直接観察尺度、家庭尺度、学校・事業所尺度）を家庭、学校、実習先で実施した。



VS=職業スキル VB=職業行動 IF=自立機能 LS=余暇スキル FC=機能的コミュニケーション IB=対人行動

図1 TTAPフォーマルアセスメント結果

尺度平均プロフィールでは、三尺度の中で、学校・事業所尺度が最も低い。この結果から学校において直接観察尺度や家庭尺度で合格または芽生えである内容のアセスメント及び指導が不十分であることが読み取れるため、本項目内容を実習前に再度整理し、支援計画に反映させることが必要であると考えられる。また、家庭尺度の対人行動の数値は、学校・事業所尺度よりも大幅に高い。これにより、慣れた人との関係では安心感があり、適切にコミュ



ニケーションがとれるのではないかと考えられる。

スキル平均プロフィールでは、対人行動が最も低い。このようなことから和食レストランでの現場実習も対人関係に配慮する必要がある。職場に障害特性と本人自身の特性について説明をする際に、集団での行動の苦手さを伝え、一人でできる職務があるかどうか、検討することが必要であると考えられる。

### 3. 2. 現場実習事前学習

特別支援学校の教育課程の中で、現場実習は進路指導の重要な柱の一つとなっている。これは、学校以外の各事業所において、実際的な職業生活を経験したり、職業生活に必要な事柄を理解したりするものである。また、これらを通して、社会に貢献する働く力を身に付けることの意味を理解し、自己実現としての進路選択につなげるようにすることが重要であるとされている。A特別支援学校高等部では現場実習を、年3回（各2週間）実施している。また、その事前学習では、実習先の決定後、その実習先の作業内容をできる限り再現し、現場実習に参加する前の二週間に全18時数（1時数50分）実施している。

高等部2年生時に実施した現場実習では、スーパーマーケットのバックヤードにおいて、野菜の水洗い、長さ揃え、パック及び袋詰め等を担当した。これらの仕事の中では、特に包丁やテープで留める道具は使い方をすぐに覚えて安全に使用することができた。

実習中はメモ用紙を携帯させ、指示された仕事内容を書き留めるよう指導した。そのことにより仕事をやり忘れることはなかったが、実習先からコミュニケーション能力が向上するとさらによいというアドバイスを受けた。その他に、作業場が騒がしい時は相手に声が聞こえないことがあったので、報告の仕方を指導して欲しいということや、品出しの時はお客さんと接するので、笑顔で挨拶ができると良いという意見等も挙げられた。休憩時間の過ごし方では、休憩時間中に売り場の試食用の食べ物を食べたり、道具を片付けずに休憩をとったりする様子が見られたが、指導後は同じ失敗を繰り返すことはなかった。

以上の現場実習での様子と、TTAPの結果から分析した学校での対人行動の低さを併せて考えると、仕事の場面毎での明確な指示や約束等を事前に伝えておく必要がある。また、適切な声の大きさについては、ナツコの理解力の高さから、学校生活の中で様々な状況を設定し体験的に学習することで改善されるのではないかと考えられる。

これらのことを受けて、進路や作業学習等の授業を中心として、現場実習で課題として挙げられた「相手に声が聞こえるように話をする」を重点的に取り上げた。授業でのナツコの目標を「相手に伝えることを意識して、声の大きさを変えることができる」「教師や友達の助言を参考にしながら自分の話す態度を確認することができる」とした。自分が話している様子をビデオで見ながら確認し、さらに、その様子を友達が見るとどのように感じるかということも確認できるように、学習プリントを用意した。このことにより、自分は聞こえるように話しているつもりでも、相手には聞こえにくいと感じとられてしまうということを理解することができた。また、遠くに離れている友達に聞こえるように声を出して、友達の足下にある様々な物を友達に取ってもらうという学習も取り入れ、その際に意図的に大きな声を出す練習も行った。

### 3. 3. TTAPインフォーマルアセスメント結果

図2は和食レストランにおいて現場実習初日に実施したインフォーマルアセスメント（CSAW）の結果である。



ナツコが実習をした和食レストランでは、玄関前の掃除や植木への水まき、食器洗いが主な仕事であった。

まず、玄関前の掃き掃除をした。ほうきやちりとりなど道具の使い方には何の問題もないのだが、キリのない落ち葉をどこまで拾うかで戸惑っているように見えた。ある程度のところで掃除をやめることができたが、どこを範囲をどれくらいきれいにしたら終わりなのか明確な指示が必要とされる。そのため芽生えである。

次に、食器洗いを行った。この職場は食器洗いのすべてが手作業である。まず、ホール担当の従業員がお膳を運んでくる。これを受け取ったところからナツコの作業は始まる。しかし、従業員の「お願いします」という声に対して何も返事をしていないのか、聞こえないようだった。巡回していた教師が大きな声で「はい」と言うように促すと、その後からは返事をするようになった。図3のDACに示すように、コミュニケーションの面で芽生えである。

食器に残っているゴミの分別では、分別用のバケツがあり、見てすぐに何を入れるのかが分かりやすくなっている。分別が終わったら食器を水に浸し、スポンジで洗い、水で洗い流すという作業である。食器洗いの一連の流れは合格であった。この職場では、食器を浸すところと洗い流すところが分かれている。そのため、スポンジで洗ったら、洗い流し用の水道台の方に入れていくため、作業の流れが分かりやすい。こうした流れがあることで、どこまで洗ったのか、また、後どれくらいなのかなどが目に見えて分かる。食器が溜まってきたことが分かるナツコなりに作業のペースを上げている様子がみられた。

また、食器洗いの仕事が溜まりすぎた場合は1人の従業員がヘルプに入るのであるが、その従業員の作業の様子を見て自分が何をしたらよいか考えて動くこともできた。

また、休憩時間の過ごし方においては、昼休みに他の従業員と一緒に昼食をとることになっている。昼食の準備の時に、他の人が電気ポットを使ってお茶を入れているのに、自分が電子レンジを使いたいために電気ポットのコンセントを勝手に抜いてしまい、電子レンジのコンセントを入れていたということがあり、注意を受けた。

### 3. 4. ソーシャル・コミックを活用した取組

自己理解を深める取り組みとして、ソーシャル・コミックを活用した。ASDの認知特性に適合したソーシャルスキル・トレーニング/コミュニケーション指導の技法として近年注目されている。ソーシャル・コミックは、ASDの子どもたちに社会的な場面を理解するための手がかりや適切な行動の仕方などを記述したコミックを使用しソーシャルスキルの獲得を支援する方法である。職場においては、ソーシャル・コミックを有効利用し、職場におけるマナーやルール等を視覚的に伝えることなどが支援方法の一つとして考えられる。今回の研究では、ナツコが就労に向けて身に付ける必要があるスキルや苦手意識を感じることなどに対して、自分の意思で適切な行動を選択できるようにソーシャル・コミックを活用した。

和食レストランにて実施した現場実習では、現場実習の途中で、自分があまりやりたくない仕事を頼まれたときに嫌そうな表情をしたり、ため息をついたり、「やりたくないのに」などと小さい声で言ったりするという状況を担当者から報告された。そこで、どのような仕事を頼まれても笑顔で受け答える必要性を伝えるためにソーシャル・コミックを作成することにした。絵を描くことはナツコの得意なことであり、また、自信を持って取り組める活動の一つであるため、ニコまんがでこれらの状況をナツコに表現してもらうことにした。さらに、まんがの下に評価を記入する欄を設けて、この目標について毎日振り返ることができるようにした。この支援の後は、『嫌な仕事を頼まれた時でも笑顔で「はい、わかりました」と言えたか』という項目は全て○が付けられ、どのような状況でも嫌そうな表情を見せ

ることなく仕事に取り組むことができたようである。仕事の区切りでの報告などは、相手に聞こえるような声ではっきりと話しをすることができていた。また、頼まれた仕事は最後まで責任をもって、丁寧に行うことができたという評価であった。

#### 4. 考察

今回の研究において、自閉症の特性や長所を取り入れた検査であるTTAPを活用し、主に現場実習における支援を中心としながら進めてきた。

始めにTTAPフォーマルアセスメントの活用では、3尺度からのアセスメントを行うことで、異なった状況における行動の様子を把握することができる点が有効であるということが挙げられる。それぞれの尺度をチェックする人は違なり、行動の捉え方や視点によって差が出ることも考えられるが総合的にその生徒を捉えることができると考える。また、尺度間に大きな差異が見られた場合は、指導内容を見直すきっかけになると考える。例えば、家庭尺度と学校・事業所尺度で大きな差があった場合、両者で一貫性を持った支援が行なわれていないということも考えられるので、その獲得しているスキルを般化させる支援が必要であると思われる。つまり、各環境下での行動の様子からそれぞれの場面での支援について考える際の資料としての活用が考えられる。

次にアセスメントワークシート（CSAW）及び毎日の達成チャート（DAC）の活用では、実習を通しての「芽生え」の部分を実習までの目標とすることはもちろんのこと、この二つを実習の始まりに行うことで、初めての仕事内容においてどのようなことができ、できないことは何なのかということ把握することができる。そして、それをもとにできない職務内容をどうやったらできるようになるのかを考えていくことが教師には求められる。巡回指導の際、行動観察するだけでなく、具体的にできるスキルとできないスキルを記録として残していくことで、巡回に来たどの教師に対しても共通理解を図ることができる資料となるのではないかと考える。

普段の学校生活の中では問題なく行われているような行動でも実際の就労現場では適切でないことがある。般化が難しいのがASDの特性であるように、フォーマルアセスメントで「合格」となったことも実際の就労現場への応用ができないことがある。TTAPにおいても、フォーマルアセスメントで見えてくるのは学校や家庭といった慣れた状況での行動の様子である。よって、普段とは異なる状況での行動や普段行っていることの般化を見る意味でもインフォーマルアセスメントに意義があると考えられる。

特別支援学校における現場実習は、高等部生徒の進路希望実現に向けた支援を行うために、進路指導の中でとても重要な柱の一つとなっている。現場実習の前段階では、本人が希望する実習先で必要とする力が本人に備わっているかを把握し、本人の持っている力を実習先に伝える必要がある。また、現場実習中は、現場実習先の巡回指導で、その職場の職務内容を分析するとともに、本人が実習を円滑に行えるように支援をすることが必要である。現場実習終了後の評価は、企業の視点から見たものであり、今後の進路指導において貴重な資料となる。具体的には、実習先の評価を分析し個別の進路指導を進める上で新たな課題を見つけ、その解決に向けた支援内容を明確化することになる。これらの現場実習の一貫した学習の中にTTAPを活用していくことはとても有効である。

以上のようなことから、現場実習時におけるインフォーマルアセスメントを中心とした生徒個人のアセスメントと職場環境のアセスメントに重点を置き、それらの結果から個別移行支援計画における目標設定方法の在り方を検討することが今後の課題である。



## 引用文献

- 1) 中央教育審議会 1999 初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）.
- 2) 文部科学省 2009 特別支援学校高等部学習指導要領 文部科学省.
- 3) 佐竹真次 2009 思春期・成人期の発達障害者への就労支援 日本臨床発達心理士会第5回予稿集 Pp29-33.
- 4) Mesibov,G.,Thomas,J.B.,Chapman,S.M.,&Schopler,E. 2007 自閉症スペクトラムの移行アセスメントプロフィールTTAPの実際 梅永雄二（監修）服巻繁・服巻智子（監訳）2010 川島書店.
- 5) キャロル・グレイ 2005 ソーシャルストーリーブック クリエイツかもがわ.